

特別活動 学習指導案

山形県寒河江市立醍醐小学校 教諭 小関 直幸

1. 単元名「醍醐地区の魅力を見つけよう ～春の学校～」

2. 単元の目標

- ・醍醐地区の貴重な文化財は、地域の人々のたゆまぬ努力で現存していること、すぐれた自然資源は、周囲の環境と関わり合いながら生きていることを理解する。(知識・技能)
- ・ビンゴカードに取り組むことで、感じた醍醐地区の自然や文化財の魅力を自分なりの言葉で表現する。(思考・判断・表現)
- ・醍醐地区の自然や文化財を見つけたり、その魅力を他者に伝えたりすることで、貴重な文化財やすぐれた自然資源を大切にし、未来へ残していこうとする態度をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6の2(4)遠足・集団宿泊的行事にあたる。

本校は慈恩寺を中心にした歴史や文化、自然が豊かな地域にある。それらを活用し、昭和45年から「自然学習」と称して、本校独自の総合的な学習に取り組んできた。現在は「醍醐学」という名に称を変えて、各学年でテーマを設定し、地域の素材を生かした探究的な学習に取り組んでいる。その一環として、年度初めに縦割り班で醍醐地区を遠足する「春の学校」という学校行事を実施している。

慈恩寺とは、746年に聖武天皇の勅命により、インド僧婆羅門によって開山された、1300年の歴史をもつ寺院である。国、県、市が定める数多くの文化財を保有していることや、広大な慈恩寺旧境内にすぐれた自然資源を有していることから、平成26年度に国史跡に指定された。この指定を受け、寒河江市では、寒河江市慈恩寺「悠久の魅力」向上基本計画を策定し、国、県及び関係団体等の協力を得て、新たな観光拠点の柱として各種整備を実施している。

(2) 児童観

「春の学校」の活動場所は、慈恩寺旧境内であり、そこには貴重な文化財やすぐれた自然資源がある。しかし、これまでの「春の学校」は、目的地に向かいながら縦割り班の仲を深めるといっねらいにとどまっていた。慈恩寺旧境内で「春の学校」を実施するにも関わらず、自然や文化財に目を向けさせるようなねらいがこれまで設定されていなかったため、年度初めの児童の多くは、それらに関心をもって生活する態度が養われていないという現状にある。「春の学校」を通して、低学年のときから、児童が醍醐地区の自然や文化財に関心をもち、大切にしようとする態度を育てたい。

(3) 指導観

第一次では、「醍醐地区には、どのような自然や文化財があるだろう」と6学年児童に問い、醍醐地区にある貴重な文化財やすぐれた自然資源に目を向けさせる。慈恩寺旧境内の地図を活用しながら話し合うことで、国指定史跡の慈恩寺があることや県指定文化財の三重塔があることなどの意見

が出されると考えられる。また、これまでの「春の学校」の経験を想起させ、どんな自然があるか気にかけていけないという意見が出されることも考えられる。本校の教育目標は「ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成」である。そこには、醍醐小学校の全校児童が醍醐地区のことを好きになってほしい、という地域の強い思いがあることを6学年児童と確認する。そして、「醍醐小学校の全校生が、醍醐地区の自然や文化財を知り、醍醐地区のことをもっと好きになるために、どんなことができるだろう」という学習問題を設定する。

第二次では、醍醐地区の自然や歴史に詳しい方から話を聞く活動を設定する。ゲストティーチャーの方から話を聞くことで、慈恩寺旧境内の貴重な文化財やすぐれた自然資源について理解するだけでなく、実際に見てみたいという児童の意欲を喚起できると考える。そこで、醍醐地区を散策する活動を設定する。ゲストティーチャーの方からガイドしていただきながら散策することで、醍醐地区の貴重な文化財は、地域の人々のたゆまぬ努力で現存していること、すぐれた自然資源は、周囲の環境と関わり合いながら生きていくことに気付くことができると考える。また、醍醐小学校の全校生に、醍醐地区の自然や文化財を知ってもらうための活動を「春の学校」で実施できないか、という思いをもつことが考えられる。

第三次では、「春の学校で、醍醐地区の自然や文化財を知ることができる活動はどんなことだろう」という問いから、6学年児童全員で、1つのビンゴカードを作る活動を設定する。5×5マスに、第二次で学習した醍醐地区の自然や文化財が盛り込まれた、低学年でも楽しめる内容にする。その後、縦割り班ごとに集まり、6学年児童が「春の学校」のねらいと、それを達成するためにビンゴカードに取り組むことを1～5学年児童に伝える。「春の学校」では、縦割り班ごとに全ビンゴを目指しながら、どの学年の児童も醍醐地区の自然や文化財に関心をもつことができるようにする。

第四次では、「春の学校で見つけた醍醐地区の魅力を知ってもらうためにどんなことができるだろう」と全校児童に問い、例えば1学年では、図画工作の授業で、ビンゴカードに取り組んで見つけた醍醐地区の自然や文化財の絵をかく学習活動を展開する。1学年児童は、絵が出来上がると、「春の学校」で醍醐地区のことをたくさん教えてくれた6年生に絵を見せたい、という思いをもつことが考えられる。そこで、6学年児童にかいた絵を見せながら、その魅力を自分なりの言葉で発表する場を設定する。低学年のときから、醍醐地区の魅力の発見・発信を積み重ねることで、醍醐地区の貴重な文化財の価値や優れた自然資源の価値を理解し、大切にしていきたい、未来へ残していきたいという児童の思いを醸成できるようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・多様性…醍醐地区には、貴重な文化財やすぐれた自然資源があること。
- ・相互性…醍醐地区の貴重な文化財は、地域の人々のたゆまぬ努力で現存していること。醍醐地区のすぐれた自然資源は、周囲の環境と関わり合いながら生きていくこと。
- ・責任性…持続的な自然環境・歴史的文化財の保全のために私たちができることを考え、行動することが大切であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

自分の地域に関心をもって生活しているかを見つめ直す。

- ・協働的問題解決力

他者と共に、地域の自然や文化財を知るためにできることを考える。

- ・進んで参加する態度

地域の一員として、地域の持続的な自然環境・歴史的文化財を保全する取組に参加する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

- ・自然環境・生態系の保全の尊重

身近な生物に関心を持ち、大切にしようとする。

- ・世代間の公正

自然環境や歴史的文化財を、自分の世代だけでなく、未来に残していけるよう考え行動する。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

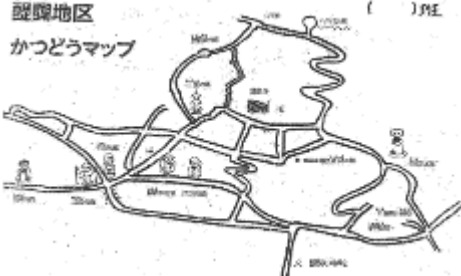

15 陸の豊かさも守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①醍醐地区の貴重な文化財は、地域の人々のたゆまぬ努力で現存していることを理解している。 ②醍醐地区のすぐれた自然資源は、周囲の環境と関わり合いながら生きていることを理解している。	①醍醐地区の自然や文化財を見つけるためにビンゴカードの内容を考えている。 ②ビンゴカードに取り組むことで見つけた醍醐地区の自然や文化財の魅力を、自分なりの言葉で表現している。	①醍醐地区の自然や文化財を見つけたり、その魅力を他者に伝えたりしている。 ②貴重な文化財やすぐれた自然資源を未来へ残していこうとする態度をもつ。

5. 単元の指導計画（全12時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価 （△） 備考 （・）
1	<p style="text-align: center;">醍醐地区にはどのような自然や文化財があるだろう</p> ○醍醐地区にある自然や文化財について話し合う。 ・国指定史跡の慈恩寺がある。 ・県指定文化財の三重塔がある。 ・「春の学校」で、どんな自然があるか気にかけていたことがない。	・慈恩寺旧境内の地図を活用して、醍醐地区の主な自然や文化財を視覚的に確認できるようにする。 ・「春の学校」の経験を想起させ、醍醐地区の自然や文化財に目を向けていなかったことに気付かせる。	△ア1 ・慈恩寺旧境内の地図
<p>醍醐小学校の全校生が、醍醐地区の自然や文化財を知り、醍醐地区のことをもっと好きになるために、どんなことができるだろう</p>			

2	<p>○醍醐地区の自然や歴史に詳しい方から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で大切にしている稚児桜は、山形城主最上義光から送られたものなんだ。 ・六地藏は、地藏菩薩の分身で、1体1体に意味があることがわかった。 <p>○醍醐地区を散策する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重塔のわきにある不動水が白く濁っていることは不思議だな。 ・「春の学校」で、醍醐地区の自然散策を試してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの方の話から、醍醐地区の自然や文化財を大切にしてほしいという思いを話していただく。  <p>醍醐地区 かつどうマップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの方からガイドしていただきながら散策する。 	<p>△ア1 △ア2 ・学習メモ</p>
春の学校で、醍醐地区の自然や文化財を知ることができる活動はどんなことだろう			
3	<p>○ビンゴカード作りに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・醍醐地区の自然や文化財を知ることができるビンゴカードを作ろう。 ・低学年でも楽しめるには、どんな内容にしたらいかな。 <p>○縦割り班ごとにルートを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの班では、この順番で六地藏を探しに行くよ。 ・ビンゴカードをするのが楽しみだな。 <p>○「春の学校」を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山王台公園からのながめがきれいだったよ。山王台公園は、楯の跡地だということを家族に教えてあげたいな。 ・ぼくのお気に入りの十二神将は、へびの神将だよ。ウィンクをしていたかっこいいからだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーからアドバイスをいただきながら、6学年児童全員で1つのビンゴカードを作る。  <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りでは、醍醐地区の自然や文化財の魅力を、自分なりの言葉で表現させる。 	<p>△イ1 △イ2 ・ビンゴカード</p> <p>△ウ1 ・振り返りシート</p>
春の学校で見つけた醍醐地区の魅力を知ってもらうためにどんなことができるだろう			
4	<p>○ビンゴカードに取り組んで見つけた醍醐地区の自然や文化財の絵をかく。 (1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、六地藏の絵をかきたいな。 ・わたしは、稚児桜の絵をかいてみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6学年児童にかいた絵を見せながら、その魅力を自分なりの言葉で発表する場を設定する。 	<p>△ウ2 ・絵 ・発表</p>

5. 成果と課題

「春の学校」を終え、多くの児童が「また縦割り班で醍醐地区に遠足に行って、自然や文化財を探したい」と振り返っていた。子どもたちが、そのような思いをもつことができた要因は2つあると考える。

1つ目は、6学年児童が協働的に作成したビンゴカードである。醍醐地区の自然や文化財が盛り込まれた、低学年でも楽しめる内容にしたことで、どの学年の児童も、本単元の目標である、醍醐地区の魅力を自分なりの言葉で表現することができた。

2つ目は、自然や文化財を教材にできる「ひと」「もの」「こと」がすぐ近くにあることである。醍醐地区の貴重な文化財やすぐれた自然資源が、現在まで残っている背景には、地域の方々の未来に残したいという思いが綿々と続いてきたからである。6学年児童が、特にそのことを実感することができたのは、ゲストティーチャーの存在が大きい。醍醐地区の自然や歴史に詳しく、さまざまな地域の方とのつながりがあるコミュニティースクールの地域コーディネーターの方から話を聞いたり、ガイドをしてもらったりしたことが、「地域の方のように、ぼくたちが、1～5年生に、醍醐地区の自然や文化財について教えてあげたい」という思いの芽生えにつながり、総合的な学習の時間で取り組んだ「慈恩寺子どもガイド」で「ボランティアガイドの方のように、ぼくたちが一般客の方に慈恩寺の魅力を伝えたい」という原動力にもなった。

6学年児童が作ったビンゴカード

「ひめおどりこそう」の写真をとろう	慈恩寺山門の「仁王様」と同じポーズで集合写真を撮ろう	石段をのぼったところにある土俵のようなどころは何をする場所でしょう	山王台公園には、何天皇の歌が残されているでしょう	慈恩寺本堂でお参りしよう
慈恩寺本堂の柱の数は何本でしょう	「つつじ」の写真をとろう	三重塔の高さは何メートルでしょう	「縁切り地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう	「さき」で笛を吹いてみよう
「よだれ地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう	「道分地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう	「にほんたんぼぼ」と「せいやたんぼぼ」を見比べよう	「やまもみじ」の写真を撮ろう	「夜泣き地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう
「慈恩寺種児桜」の写真を撮ろう	慈恩寺の鐘（かね）をつこう	「醍醐小発祥（はっしょう）の地」の碑（ひ）を見つけよう	お気に入りの十二神符の干支を覚えよう	八千代公園から寒河江川をゆびさそう
「子安地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう	白くにごった不動水を見つけよう	「延命地藏」はどんな願いごとをかなえてくれるでしょう	できるだけ大きい「まつぼっくり」をひろってこよう	「ちゅうてつぶっしょうばち」に頭を入れよう



本実践は、単元構想の相互検討前だったため、そこでご助言いただいた、ビンゴカードに取り組んで見つけた醍醐地区の自然や文化財の絵をかく学習活動ではなく、6学年児童が、以前醍醐小学校で昔語りをしていた「とんと昔の会」に依頼状を書き、全校生に読み聞かせをしていただく学習活動を実施した。児童から、「春の学校」で見つけた自然や文化財のいわれについて知りたいという意見が出されたためである。次年度は、低学年児童が、6学年児童に、かいた絵を見せながらその魅力を自

分なりの言葉で発表する学習活動を実施してみたい。また、指導案の相互検討で、ビンゴカードの内容が、「もの」「こと」の現状を認識するにとどまっている、「ひと」の営みが見える内容も盛り込んでみてはどうか、とご助言をいただいた。先述したように、醍醐地区の貴重な文化財やすぐれた自然資源が、現在まで残っている背景には、地域の方々の未来に残したいという思いが綿々と続いてきたからだということを、全校児童が実感できるようなビンゴカードにしていきたい。



6. 本実践を通じた考察

「春の学校」を通して、全校児童に身に付いたESDの資質・能力は、能力批判的に考える力（クリティカル・シンキング）、進んで参加する態度の2つである。

6学年児童は、ゲストティーチャーの方から話を聞いたりガイドしてもらったりしたことによって、1～5学年児童は、6学年児童から醍醐地区の自然や文化財を教えてもらいながらビンゴカードに取り組んだことによって、醍醐地区を見つめ直すきっかけとなった。1学年児童は、「慈恩寺には頭を入れると頭がよくなる鉢があることを、家族に教えてあげたい。」、3学年児童は「醍醐地区には、昔から日本にあるにほんたんぽぽがたくさん咲いていた。にほんたんぽぽかせいようたんぽぽかは、花の下の緑のところがかっついていてか広がっているかで見分けることが分かった。」、5学年児童は、「夜泣き地蔵は、赤ちゃんが夜泣かずにぐっすり眠れますよ」という願いを叶えてくれるお地蔵様ということがわかった。来月赤ちゃんが生まれるので、家族と一緒にまた行きたい。」などと、自分の地域に関心をもつようになった。1、2学年児童は、「春と秋の醍醐地区に違いはあるのかな」

「秋の醍醐地区の自然を探しに行きたいな」という思いをもち、これまで学校の周囲にとどまっていた生活科の「秋探し」の活動場所を、「春の学校」と同じ活動場所まで広げ、学習を行った。また、これまで関心のなかった児童が、慈恩寺の年中行事や地域の清掃活動に進んで参画するようになった。

最後に…

昨年度は6学年を担当し、児童が一般の方に慈恩寺の魅力ガイドする「慈恩寺子どもガイド」を、ESDと関連付けて実施した。「慈恩寺子どもガイド」を通して、6学年児童は、持続可能な地域活性化のために、地域づくりに主体的に参加することの大切さを実感することができた。今年度は、教務主任という担任をもたない立場だが、全校生が参加する学校行事にESDを関連付けて実施したことで、本校の先生方がSDGsやESDに関心をもつまでに至った。どのような立場になっても、山形県のESDをさらに推進していくことができるよう、今後も研修、実践を重ねていきたい。

学校教育目標 「ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成」

6年間を通して目指す姿

地域の魅力を再発見し、持続可能な地域づくりについて自分ができることを考え、行動することができる。

学校行事

「醍醐地区の魅力を見つけよう ～春の学校～」

縦割り班ごとに、6学年児童が作成したピンゴカードに取り組みながら醍醐地区を散策する。

○主に養いたいESDの資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

自分の地域に関心をもって生活しているかを見つめ直す。

協働的問題解決力

他者と共に、地域の自然や文化財を知るためにできることを考える。

進んで参加する態度

地域の一員として、地域の持続的な自然環境・歴史的文化財を保全する取組に参加する。

○主に育てたいESDの価値観

自然環境・生態系の保全の尊重

身近な生物に関心を持ち、大切にしようとする。

世代間の公正

自然環境や歴史的文化的財を、自分の世代だけでなく、未来に残しているように考え行動する。

醍醐学の深化

生活科

1 学年「なつとなかよし」「あきとなかよし」「ふゆとなかよし」季節と生物との関わりに気付く。

2 学年「いきものはっけん」「わたしの町 はっけん」地域の「ひと」「もの」「こと」の関わりに気付く。

総合的な学習の時間

3 学年「よみがえれ！ 慈恩寺ハス」 慈恩寺蓮の再生

4 学年「守ろう！ ホタルの里 醍醐」 慈恩寺境内のホタルの愛護活動

5 学年「受け継ごう！ 日和田弥重郎花笠田権彌」 伝統・文化の継承

6 学年「目指せ！ 慈恩寺子どもガイド」 慈恩寺の歴史や文化の発信
地域の課題を解決するために自分にできることを考え、行動する。

学校行事「学習発表会」

生活科や総合的な学習の時間を通じた探究学習で学んだ地域の魅力を発信する。

学級活動

「とんと昔の会」

昔語りを聞き、地域の自然や文化財とそのいわれを関連付ける。

学校行事「修学旅行」

慈恩寺の魅力を他県の方々に紹介する。

醍醐地区に、こんなにたくさん自然や文化財があったなんて知らなかったな。

醍醐地区の「ひと」の努力があって、たくさん「もの」「こと」が今に残っているんだな。

醍醐地区の一員である私たちが、地域づくりに主体的に参加することが大切なんだな。

11 住み続けられるまちづくりを



15 陸の豊かさも守ろう

